

会 議 録

会議名 (審議会等名)		令和2年度第1回相模原市文化振興審議会		
事務局 (担当課)		文化振興課 電話042-769-8202(直通)		
開催日		令和2年7月31日(金)～8月31日(月)		
出席者	委員	13人(別紙のとおり)		
	その他			
	事務局			
公開の可否		可 不可 一部不可	傍聴者数	0人
公開不可・一部不可の場合は、その理由		書面会議のため		
会議次第		<p>1 開 会</p> <p>2 議 題 (1) 第3次プランで掲げる重点項目等の推進に向けた取組方針について (2) 市民団体の活動活性化に向けた取組について</p> <p>3 報 告 (1) 新型コロナウイルス感染症による本市文化芸術施策や施設への影響について (2) 第3次プランの冊子の運用・配布先について</p> <p>4 閉 会</p>		

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。(〇 は委員の意見、 △ は事務局の説明)

1 開 会

(審議を書面等で行った理由)

新型コロナウイルス感染症のまん延を防ぐために、委員等が一堂に会する方法により会議を開催することが困難であったため、議決の方法等について事前に取り決めを行い、事務局より説明資料の送付を行い、書面により審議会委員等の意見を求め、回答を得ることにより会議の開催に代えることとした。

2 議 題

(1) 第3次プランで掲げる重点項目等の推進に向けた取組方針について

第3次プランの重点項目5つのうち、1(地域文化教育の推進)及び2(情報発信の強化)で掲げた主な取組に関して、前期(令和2~4年度)に取組む事業の概要について、書面により審議を行った。

地域文化教育の推進については、感染症対策を実施しながら、どのようなプログラムの運用ができるのか検討が必要と考える。本審議会が認める形で分科会やワーキングチームを設置し、具体的なプランニングと実施のサポートを行うのはどうか。

学校訪問授業の内容が、クラシックだけなのは勿体ない。相模原音楽家連盟に所属はしていない団体もあるため、市が文化財団と協力して、幅広いジャンルの文化芸術を子ども達に提供するのはいかがか。

学校訪問授業については、演奏を通じて音楽の素晴らしさを伝えるだけでなく、キャリア教育の視点を取り入れ、演奏家への歩み、生き方等について演奏家と児童とが会話する機会を設けるなど、一層の充実を図りたい。加えて中学校での取組にも期待したい。

地域文化教育を推進することで、子ども達にとってもかけがえのない経験を積むことができると考える。また、情報発信については、相模原の魅力が伝わる画像などを用いて、ホームページのアクセス(利用者)数が増えると良い。

音楽、演劇の取組には賛成するが、市はフォトシティばかりに偏りすぎていると感じる。

情報発信の強化は感染症の影響により、文化芸術の情報提供と鑑賞については今後ますます重要な取組になっていく。そのため、コンテンツを充実させられるかを最重要事項として、速やかに対応しても良いと考える。情報は、需要と供給の正確さも大切だが訴求力が必要であることから、文化芸術のカテゴリーを少し整理して、コーポレート・アイデンティティーのようなものを作成しても良いか

もしれない。

- 深刻な状況を招く感染症であるため、対面での活動を当面制限し、ホームページ制作などに注力することは賢明な判断であり強く賛成する。
- 感染拡大の中で幅広く事業等を周知することに賛同する。コロナの影響がなくなった時に花開くことを期待する。特に学校関係の取組を推進することは良いと思うが、その後のフォローも必要と考える。
- 事例紹介があった京都文化芸術オフィシャルサイトは、よくできているため多めに参考にし発信していくことを希望する。また、視野を市内だけに向けず、全国の取組も注視していくことも大事である。様々な情報を発信することで、若い人達にも有益な情報提供となり、意味あるものとなる。市民参加として中高年以上をターゲットにすることは、幅広い層で、しかも多くの数の参加が期待できるが、主眼になる活動は、若者層に移行していくことを是非検討いただきたい。学校訪問授業等は、資料にある形で良いと思うが、大学の単位化などできるだけ若い学生等にも参加してもらおう機会を設定することを考えてみてはいかがか。学生と共に学ぶことができると良いと思う。

学校訪問授業(地域文化教育の推進)については、いただいたご意見を踏まえ、キャリア教育の観点を踏まえた授業の実施に向け、教育委員会や学校現場と調整するとともに、幅広いジャンルの文化芸術を展開できるよう取り組んでいく。また、情報発信の強化については、コロナ禍であることを踏まえ、他市サイト等を参考にしながらコンテンツの充実やカテゴリーの整理を行うなど、ホームページ制作に取り組む。

(2) 市民団体の活動活性化に向けた取組について

第3次プランの具体的な取組を進める上で参考となる、文化団体等の活動事例の検証や意見聴取を目的とした審議会へのオブザーバー参加について、書面により審議を行った。

- 具体的にプランを推進していく際にはオブザーバーの力と活用も必要だと思う。徐々にオブザーバーとしての協力者が増えていくような、目に見える具体的なフィードバックがあると良いと思う。オブザーバーや協力者がいかに納得するかは難しい観点だが、審議会での発言内容を何らかのメディアに掲載するなどして意見が出たことを確認できるようにしてはどうか。
- 実情を具体的に聞き、必要なアドバイスをいただけることと思うので賛成する。門戸を広げ風通しの良い仕組みにするのが本来の理想かと思う。一方で、自らの団体への愛が溢れるあまり、自分達の活動についてミクロの視点から話される方もいる。俯瞰して説明いただける適切な人選されるようお願いしたい。

- 活動の活性化は人・場所・内容等で幅広く行う必要がある。一定の目標に向かって、担当者は企画し、人に目を向かせる必要がある。学校教育は小学生が中心になりがちだが、中学生、高校生、大学生にももっと手を出していった方が良い。
- 審議会へのオブザーバーとしての参加は問題ないと思うが、基本的に市民団体の個別の活動問題を市が取り扱うことに違和感を持つ。必要ないと思う。ただし、演劇を含む音楽鑑賞等の分野によっては、そうした組織の方が市民の文化振興に連携しやすいことがあると思う。そこは分けて考えた方が良いのではないか。団体の単位を大学等にスライドさせていき、若い活力ある優秀な方々の個別参加を促すことに、市も方向を変える時期が来たと思えるべきだと思える。

オブザーバーの参加に向けて調整を進めるが、人選については、いただいたご意見を踏まえて検討していく。

3 報告

(1) 新型コロナウイルス感染症による本市文化芸術施策や施設への影響について
新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策として実施した、市主催イベント、市施設の対応及び施設の再開と文化活動の活性化に向けた取組について、書面により報告を行った。

- 市や文化施設発のクラスターを決して出さないといけないと考えた時に、イベントの中止は賢明な判断だと思える。私の地元では、感染に気付かず施設を利用した方が感染源となり同席の方、次の時間に同じ場所を使用した方がコロナに罹病している。ワクチンが開発されるまで、極力人と人とが接する事がない事を使用条件として、リスクを最小限に抑えることにまずは注力すべきかと思える。対面での活動が実質的にできない間、各施設はこれまで手が回らなかったホームページの改善や施設の改修などに取り組む良い機会にすればと考える。そのために、市側も予算を柔軟に使用できる仕組みや配慮も必要かと思える。
- コロナ禍での市の対応は適切だと思える。
- 感染拡大防止のため、市の文化関係施策の中止や施設の閉鎖等は仕方ないと思える。現在の社会情勢を踏まえると、各文化芸術の関係者がそれぞれ連絡を取り合っていて、コロナウイルスが終息した後を見据えて取り組んでほしいと思える。
- 演奏活動については、プロのオーケストラが実証実験を行った結果、基本的には問題ないとされている。客席側は従来通りの対策が必要であるが、ステージ側はコロナ以前の対応で問題ないと思える。
- 来年になれば、感染症対策をすることで緩和できる部分もあると思える。
- シビックプライドの醸成には文化芸術の振興は不可欠であることから、文化芸術活動の支援について、多様な施策を期待する。

- 文化施設の利用と文化活動に関わるイベントの中止と延期などを、市としてどのように考えているのか伺いたい。そのうえで文化活動の支援策の有効性について議論し検討していきたい。文化施設の運用については、今回の緊急事態などを機に施設間の連絡網を強化して、安全で安定した運用のための情報交換と意見交換を促進してはどうか。また、市民文化活動については、相模原市が全国の自治体に対しても良いモデルケースとなるような補助・支援制度を設けていただきたい。案として、相模原市が文化芸術のカテゴリーを整理してコーポレート・アイデンティティーのようなものを制作し、主催者がイベントや広報活動に利用した場合には助成金を出すなどして広報効果と支援を両立させる。各文化施設の業務を仕分けし、その一部を積極的にアルバイト業務に移行して文化芸術活動に関心ある市民を雇用し、場合によってはアルバイト報酬の代わりに施設利用費を一部免除するなどの助成を行い、サポーター意識を高めていくなどが考えられる。

引き続き感染の拡大防止に注力しつつ、新しい生活様式の下での文化活動の定着に向けた取組を行っていく。

(2) 第3次プランの冊子の運用・配布先について

第3次プラン冊子の配布先について、書面により報告を行った。

- 第3次プラン冊子を受け取った側がどのように活用しているのかを調査していただきたい。また、地域の産業界や政治活動に関わる方々への配布状況についても報告いただきたい。
- このような素晴らしいプランがあることを是非多くの方に知っていただきたい。例えば、1分程度の説明動画を作り、ホームページに掲載するのはいかがか。
- 新型コロナウイルス感染症の影響もあり、文化施設等が閉まっていることもあり、プランを見ている人が少ないと思われる。また、読まれた方より「もう一歩踏み込んだ具体的なものがほしい。」と言われることもある。具体的には、基地返還地に美術館をつくるなど先に見えるものが必要かもしれない。
- 市内の画廊、ユニコムプラザさがみはらにも配布したほうが良い。
いただいたご意見を踏まえ、より多くの方にご覧いただけるよう取り組んでいく。

4 閉 会

以 上

令和2年度第1回相模原市文化振興審議会委員出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	おおもり さとる 大森 悟	女子美術大学芸術学部美術学科教授	会 長	出席
2	かねこ ともえ 金子 朋沐枝	相模原市文化協会副会長		出席
3	かみじょう ようこ 上 條 陽子	相模原芸術家協会会長		出席
4	きぐち えいじ 木口 詠辞	公募委員		出席
5	しのざき しげお 篠崎 重雄	相模原市民俗芸能保存協会副会長		出席
6	すぎもり じゅんこ 杉森 順子	桜美林大学芸術文化学群教授		出席
7	すずき まさひこ 鈴木 正彦	光と緑の美術館館長		出席
8	とつか あつお 戸塚 厚生	相模原市文化財研究協議会会長		出席
9	ともだ ゆきお 友田 幸男	相模原市民音楽団体協会理事長		出席
10	なかざと かつひと 中里 和人	東京造形大学造形学部デザイン学科 教授	副会長	出席
11	のむら けんいち 野村 謙一	公益財団法人相模原市民文化財団 常務理事		出席
12	ひぐち みさこ 樋口 美佐子	相模原音楽家連盟事務局長		出席
13	みつもと ひろこ 三本 博子	公募委員		出席